

# AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学図書館報 第22号

## Contents:

慶北大学校中央図書館の至福の日々

語劇あるいはスキット練習と読書

特集 図書館の新サービス 1 閲覧席の増席

特集 図書館の新サービス 2 ILL メール通知開始

特集 図書館の新サービス 3 卒論 OPAC 検索

2004 年度図書館統計

Information

編集後記

## 慶北大学校中央図書館の至福の日々

田中 敏彦

学生時代からフランス語・文学・哲学を学びそれらを研究し教えている私が、なぜ一年間の在外研究期間を、フランスではなく、韓国で送りたいと願うに至ったのか。日本でも韓国でも何度尋ねられたことだろう。一九九九年秋頃私はテレビで韓国映画を偶然三本続けて見る機会があった。これが大げさに言えば私の人生を変えたのだ。その時私が見た三本の韓国映画、林権澤監督の「西便制」と「太白山脈」と「祝祭」は、世界のどんな名作映画にもひけをとらないどころかそれらを凌駕するほどの衝撃力のある傑作であった。

「太白山脈」によって、私は韓国の苦悩の現代史(日本の敗戦による植民地解放から朝鮮戦争に至る激動の時期)を発見するとともに、ちょうどその頃原作である趙廷來の同名の大河小説が翻訳され、韓国映画の背後に、あるいは横に、豊かな文学の世界が広がっていることにも気がついた。「祝祭」は、すっかり形骸化した日本の葬式とは異なり、いまなお実質を失っていない韓国の伝統的葬祭儀礼を克明に描いていてまことに興味深い作品である。そしてとりわけ「西便制」に描かれた韓国の山野を放浪するパンソリ芸人たちの姿に私は不思議

議な感動を覚えた。これほど高い芸術性をもった作品がすぐ隣の国で生み出されていることに驚くと共に、その隣国についてほとんど何も知らずにいたことにも驚かざるをえなかった。それ以来、隣国の歴史と言語を学びたいという気持ちが強くなり、フランスを中心とする欧米の研究と並んで、韓国を中心とする東アジアの研究が、私の研究のもう一つの焦点になって行ったのである。

欧米の思想や文化を研究し教育してきた人間が、韓国の歴史と文化を研究し、欧米文化とアジア文化を二つの焦点とする楕円的世界を構想することには、それなりの重要な意味があるのではないか、 という内容の手紙をキョンブクテハッキョ（慶北大学校・キョンデと略称される）で先生をしている知人の韓国人に思い切って出して見た。こうしたケースはきわめて稀らしく、ビザや外国人登録証の取得は容易ではなかったが、私の願いを理解してくれたキョンデ（慶大）の先生たちのおかげで、キョンデの研究者として韓国に滞在できることになった。そしてついに二〇〇四年四月二日プサンからその前日開通したばかりの韓国版新幹線KTXに乗ってテグ（大邱）に辿り着いたのだった。

大邱はソウル・プサンに次ぐ人口二百五十万の韓国第三の大都市で、キョンサンプクト（慶尚北道・大学名はここに由来する）の中心都市である。慶北大学校（韓国では学部を大学、大学全体を大学校と呼ぶ）は、日本の国立総合大学

にあるような諸学部に加えて、教員養成学部や芸術学部まであるマンモス大学である（学生数は二万六千名余）。私が主に利用することになったのは中央図書館で、座席数約四千八百余、延べ床面積約九千坪、五階建ての広大な図書館であった。韓国の大学図書館は全て開架式で書庫と閲覧室が分離していないので、迷路のような図書館内部をあちこち散歩して思いがけない本（日本でも見たことのないような日本語の文献）を見つけることもあった。

私はだいたい二階の哲学の書棚のあるコーナーに行くことが多かったが、困ったのは昼過ぎに行くと空席がほとんどないということだった。いや実はかなり空席はあるのだが、すでに書物やノートで占領されてしまっているのである。学生たちは大学に来るとすぐに図書館の席を確保しておいて、講義にでたり食事をしたりしながら、暇ができるとそこに来て勉強する習慣があるからだ。韓国の大学は、入るのも大変（日本の入試センター試験に該当する修能試験の成績以外に、内申書が重視されるので、定期試験の成績の悪さに悲観して自殺する高校生がよく話題になるほどである）だが、入ってから学生たちは熱心に勉強しているように思われた（図書館の地下には勉強だけをする自習室があり、試験期間中は二十四時間開放される）。日本と異なっていて、韓国の企業が大学での成績を採用の際に重視するという理由以外に、男子学生は二年半の兵役を休学して務める

ケースが多く、復学してから遅れを取り戻すために必死で勉強せざるをえない、という話も聞いた。

哲学関係の外国語文献は、英語・仏語・独語以外に、日本語の文献がかなり収集されていたが、新しい文献は少ないようだった。植民地支配から解放された直後の一九四六年に設立された慶北大学校で最初に教鞭をとったのは日本語で教育を受けていた人々であったこと、その後は

欧米に直接留学する人が中心になっていったことの反映であろうかと思ったりした。哲学者とはいつでも再び学生に戻れる人のことである、というベルクソンの言葉を思い出しながら、若い学生たちに混じって図書館で様々な本を読みふけた日々は、まるで学生時代に戻ったかのような至福の日々であった。

(本学教授)

## 語劇あるいはスキット練習と読書

神戸市外国語大学ならではの行事のひとつに、毎年11月下旬に開催される「語劇祭」があります。現在3回生である私は1回生で観客、2回生でキャストとして参加しました。昨年キャストとして参加した際、繁体字で書かれた台本を簡体字に直す作業や物語背景の資料収集等、外大図書館に大変お世話になりました。その中国語劇団の演目は、高行健氏の「野人」でした。台本は、多少アレンジするものの既製本、文学でいうところの戯曲作品を使います。私にとって台本とは、教科書のような付属CDが無い、つまりモデルリーディングが無い初めての中国語作品、という認識でした。

私は書かれた文章を声に出して読むことが苦手で、非常に不安でした。そこで台本を手にした当初の夏季休暇頃は、

ネイティブの先生に定期的にチェックして頂きながら、黙読と音読中心に練習しました。10月下旬には演技の練習が本格化しました。スキット練習を考えて頂くとイメージしやすいかと思います。英語の授業等で経験された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この頃私は皆と同じ舞台に立っているか、ひとりで台本の音読を発表しているかのようでした。そこで、それまでの練習を振り返って見たところ「読書スタイルと演技が似ている」ということに気が付きました。文章のジャンルを問わず、速いペースでテンポよく読み進める読書スタイル同様に、ひとりで読書している感覚でセリフを話し、自分のペースで物語を進めていました。

これの克服の足掛りとなったのは、映画鑑賞でした。映画は既に何本も参考

にしていたが、今回は鑑賞の際にあるものを活用しました。それはシナリオ集です。外大図書館には中国映画の台本の原文に日訳が対応しているシナリオ本があります。本棚の間に立ち、背表紙を見て回るのが好きなので、このような本の存在は知っていました。映画1本まるごと収録されたものもあれば、数本の映画からいくつかのシーンを編集したものもあります。この本の存在を思い出し、個人練習の際は語劇の台本を離れ、これらの本を使って「台本を自分の言葉にする」研究をすることにしました。図書館で借り、当大学のもうひとつの図書館である視聴覚ライブラリーへ。自宅のように観ながら声を出してシャドーイング等にはできませんが、いわゆる韓流ブームによって縮小したレンタルビデオ店よりも豊富に中国映画が揃っている心強い味方です。

具体的には、語劇と同様にまず台本を読み、演技を想像してから台本を片手に実際の映画を観ました。手元の文字列が音となり、役本人の言葉として伝わってくる感覚。この時初めて読むことと演じることの違いを実感しました。同じ台本を手にしていても読書と演じること、つまり語劇あるいはスキット練習には大きな違いがありました。読書は、黙読にせよ音読にせよ、ひとりで物語を進めていくことができますが、語劇は皆で

物語を進めていくものだったのです。それまで自己完結した練習ばかりだった私は、皆と共に練習するにつれて、相手のセリフに反応して次のセリフが出てくるようになりました。

11月に入ってからは、より多くの人々と語劇中心の生活を共にし、その中で試行錯誤を続けた結果が11月27日の語劇祭当日の舞台です。しかし当時は気付かず、今回この文章を書く過程で漸く気付けたことも多々あります。物語の世界を気ままにひとり旅するのもいいけれど、台本というガイドブックを手仲間と共に歩む旅路は思いがけない発見もあり、素敵なものでした。今年の語劇祭の活動も進行しつつある今、この思いを発表させて頂くことができ光栄に思います。私にとって、他にもないこの神戸市外国語大学での毎日は、人々は勿論のこと、図書館や視聴覚ライブラリー等の設備に支えて頂いていることを改めて感じました。ありがとうございました。

光あたたかく風さわやかな神戸市外国語大学図書館にて

(中国学科3年)



## 閲覧席の増席について

1986年に現状規模の条件でここ学園都市に移転しました図書館は、閲覧室面積を倍以上拡張し、5万冊の図書を配架したところ、キャンパス内の地のりの良さもあり利用率は大幅に上がりました。その後、国際関係学科や大学院の増設により、学生数・利用者が増大し、試験期の座席は今や飽和状態になっています。そこで学生のより一層の図書館利用の向上を図るため、地域開放などで市民と連携を保ちつつ、閲覧室のスペース拡大や増席などの整備をしていくことが急務となっていました。

こうした中、図書館増築の予算要求を従来から神戸市に行ってきましたが、阪神淡路大震災等に因る財政状況の逼迫が積年のこの課題を解消する上での障害となりました。しかし、このたび大学基準協会から閲覧室スペース改善等の勧告を受け、増席の予算をようやく確保することができました。ただ、限られた予算に限られた閲覧室スペースを考える中で、最大の効果をあげることを目的とし、既存の備品類を有効活用しながら、現状のバリアフリーを崩さないようレイアウト変更の実施計画にかかりました。



スクリーンを施した閲覧席

以前のレイアウトでは個人空間スペースは相当ゆったりとっていましたが、反面、対面式座席が多く、人の視線をあまり意識せず落ちついた環境で勉強できる座席が少なかったように思います。新レイアウトでは、若干手狭になり御不便をおかけしますが、個人机はほぼ従来どおりで、対面机を単体アレンジするとともに、前と横にスクリーンを施した4人掛机を新設することで、数種の座席を選べる楽しみを感じていただけるかと思えます。また、白書・年鑑や新聞縮刷版などをとりまとめ、カウンター横の書架に配架しました。ロビーには個人机を設置し勉強スペースを確保しました。

結果、実質の座席数は、40席増の計172席（ロビー・書庫を含む）となり、2005年度在籍学生数2,333人に対する用意座席数割合が7.4%（昨年度6.0%）となりました。しかし、図書館設計の基本方針である数値が15%であることから、今後も引き続き、図書館のスペース問題は検討の余地があるように思われます。

(山本)



カウンター横の書架

## ILL メール通知サービス開始のお知らせ ILL ご利用の皆様へ朗報！

従来ILL\*資料到着時の通知は図書館内の掲示板を通じて行っていましたが、2005年6月よりEメールでお知らせすることができるようになりました。大学図書館への現物貸借・文献複写の依頼、公共図書館への現物貸借依頼のすべてでEメールによる通知をご利用いただけます。お申し込みの際、申込用紙にメールアドレスを記入してください。

### ここが便利です

- ・図書館まで足を運ぶことなく、資料の到着を知ることができます。
- ・事前に連絡された料金を用意して図書館へ行き、その場で受け取ることができます（現物貸借で料金切手払いの場合のみ）。
- ・申し込み後に資料到着に時間がかかることが判明した場合など、ILLに関する連絡事項をすみやかに伝えることができます。
- ・携帯メールアドレスへのお知らせも可能です。



### ！ご注意ください！

- 1) 携帯メールアドレスの場合、次の条件にあてはまるものは避けてください。
  - ・「ドメイン指定受信」(NTT ドコモ) など、特定の送信者からのみ受信可能な設定がされている
  - ・携帯からのメールのみ受信可能な設定がされている
  - ・その他迷惑メール対策のため図書館からのメールを受信不可能な設定がされている
  - ・受信文字数が192文字未満
- 2) メールアドレスは楷書で丁寧に記入してください。特に「-」(ハイフン)と「\_」(アンダーバー)の区別、「.」(ピリオド)の有無などがはっきり分かるようにしてください。

従来どおりの図書館内掲示板によるお知らせも可能です。申込用紙にメールアドレスを記入せず、「掲示板を希望」チェックボックスに印を入れてください。教員の皆様はメールボックスへの通知を選択することも可能です。

\* ILL = Interlibrary Loanの略。「図書館相互貸借」と訳されます。図書館を通じて、ほかの図書館の資料を利用することができるサービスです。

(橋本)

## 卒業論文が館内 OPAC で検索できるようになりました

図書館には、毎年4月から7月にはあまり利用されず、夏休みを境に急に引っ張りだこになる資料群があります。その資料とは卒業論文です。

図書館では、学生課から移管された卒業論文・修士論文・博士論文を書庫に保存しています。卒業論文は貸出および複写はできませんが(複写には著者の許諾が必要)、館内での閲覧は可能です。閲覧するには、館内の卒業論文検索ツールで資料請求に必要な情報(タイトル・請求記号)を調べ、カウンターに利用を申し込みます。

従来、卒業論文の検索ツールは、カード目録に限られていました。カード目録を使う場合、ゼミ(教員)名がわからないと、特定の論文を探すことができません。これはカード目録がゼミごとに配列されているためです。著者名やタイトルから探すには、片っ端からカードを見ていくしかないなど、不便な点がありました。

このたび、図書館では所蔵資料のデータ整備を進め、今までカード目録でしか検索できなかった資料の多くがOPACでも検索できるようになりました。卒業論文もそのなかの一つで、館内 OPAC を使ってすべての博士論文と 1995 年度以降の修士論文と卒業論文が検索できます(WebOPAC では検索不可)。

OPAC を利用することで、多角的な検索が可能です。タイトル・著者名・ゼミ名による検索はもちろんのこと、複数のゼミにまたがる検索や卒業年度による絞り込みもできるようになりました。ただし、検索には、ちょっとしたコツが必要です(下記参照)。詳しい検索方法は、リーフレット「ご存知ですか? 卒業論文の探し方」に掲載されています。

卒業論文の検索には、便利な OPAC をご利用ください。

### 卒業論文の OPAC 検索のポイント

必ず検索項目「資料タイプ」を「卒業論文」または「修士論文」「博士論文」に設定した上で、検索語を入力し検索する  
タイトル・著者名で探す場合は、図書  
の検索と同様に、検索項目「タイトル」  
「編著者名」に検索語を入力する  
ゼミで探す場合は、検索項目「件名」に  
教員名を入力する(複数のゼミを検索する  
場合は、「いずれかを含む」を選択)  
卒業年度で絞り込む場合は、検索項目  
「出版年」に「卒業年度に1加えた値」  
を入力する(1999 年度の卒業論文を探  
す場合は、「2000」を入力)

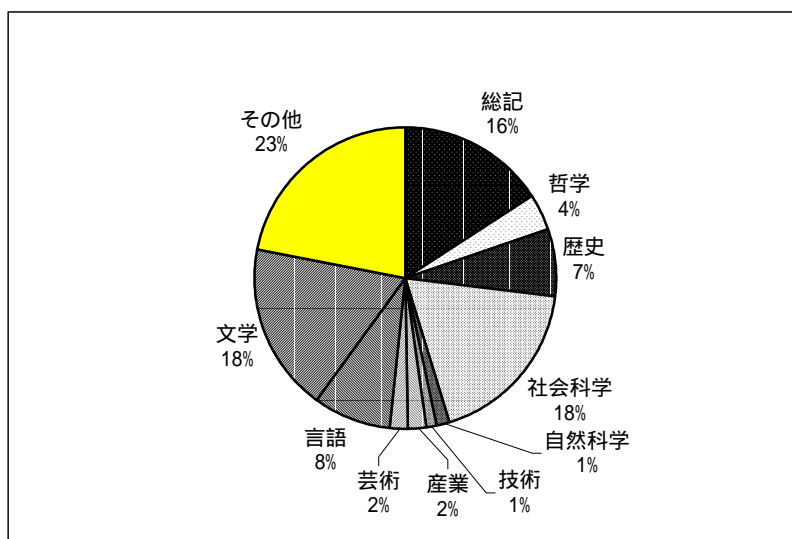
詳しくは、リーフレット「ご存知ですか? 卒業論文の探し方」をご覧ください。

(飯島)

## 2004 年度図書館統計

図書館	蔵書総数		390,638 冊	
	入館者総数		207,235 人	
	貸出総数		42,472 冊	
	相互協力	図書貸借	借受冊数	343 冊
			貸出冊数	150 冊
	文献複写	依頼件数	581 件	
		受付件数	116 件	
視聴覚ライブラリー	所蔵総数		5,187 種	
	利用者総数		8,412 人	

### 図書館 主題別蔵書冊数

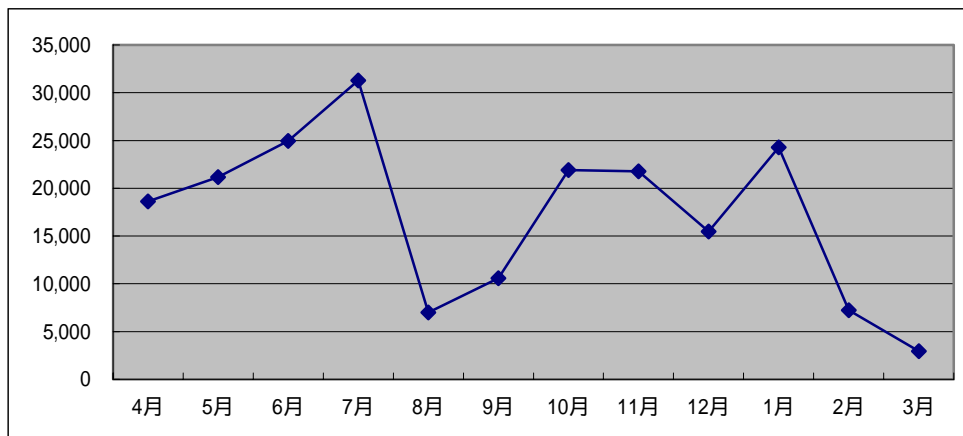


(単位:冊)

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	その他	総計
和書	40,261	11,484	17,461	48,821	4,579	3,060	5,493	4,145	14,174	29,934	30,522	209,934
洋書	21,956	3,169	11,294	22,282	1,200	1,054	2,586	2,775	18,108	41,135	55,145	180,704
計	62,217	14,653	28,755	71,103	5,779	4,114	8,079	6,920	32,282	71,069	85,667	390,638



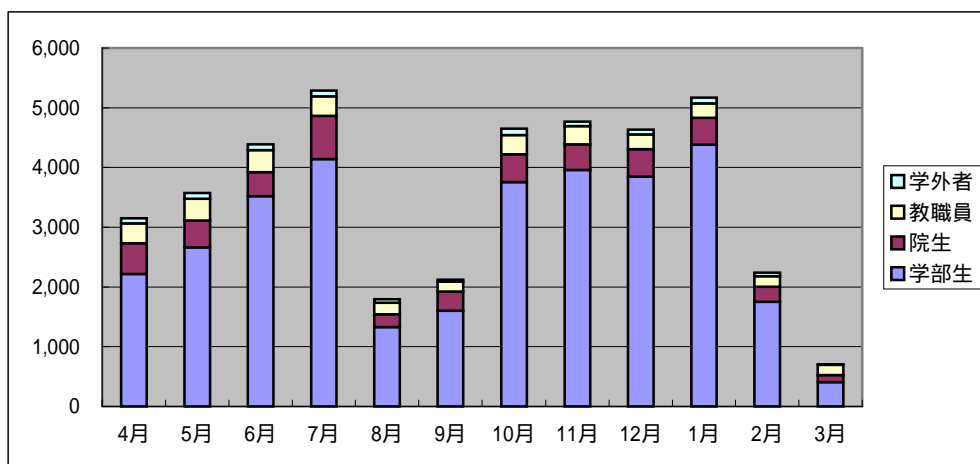
## 図書館 月別入館者数



(単位:人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
18,626	21,152	24,963	31,292	6,993	10,581	21,910	21,757	15,488	24,278	7,235	2,960	207,235

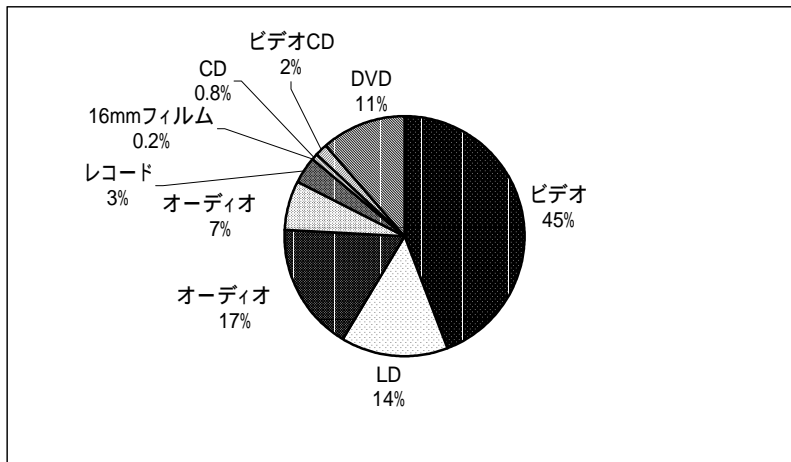
## 図書館 月別貸出冊数



(単位:冊)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
学部生	2,216	2,663	3,522	4,141	1,329	1,603	3,754	3,961	3,848	4,381	1,750	409	33,577
院生	517	447	397	722	215	319	467	429	457	453	253	118	4,794
教職員	329	368	371	327	191	167	324	303	247	240	176	168	3,211
学外者	90	94	97	96	58	32	106	74	83	93	58	9	890
計	3,152	3,572	4,387	5,286	1,793	2,121	4,651	4,767	4,635	5,167	2,237	704	42,472

## 視聴覚ライブラリー 資料種別所蔵点数

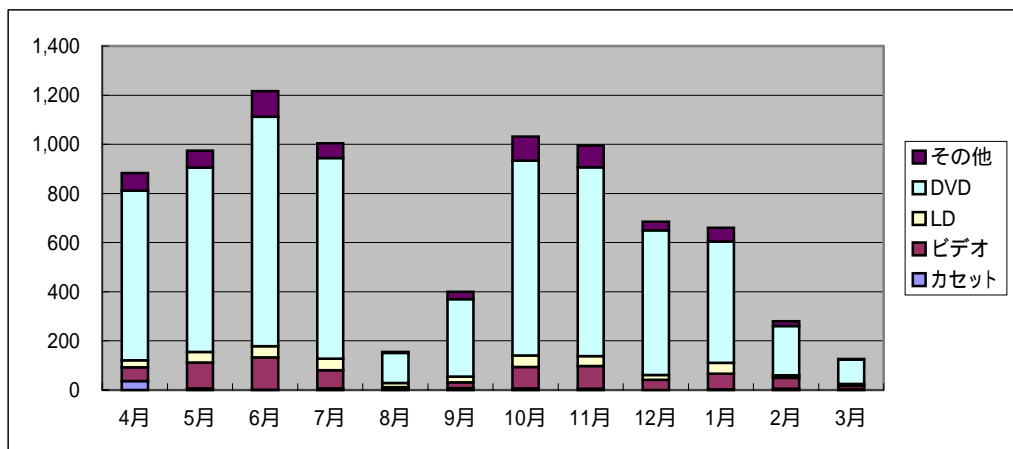


(単位:種)

ビデオ	LD	オーディオ	オーディオ	レコード	16mmフィルム	CD	ビデオCD	DVD	総計
2,291	747	896	349	179	11	41	80	593	5,187

…カセット …オープンリール

## 視聴覚ライブラリー 月別利用者数



(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
カセット	37	6	1	6	6	8	6	5	0	2	5	3	85
ビデオ	55	106	132	75	6	23	88	93	41	65	45	14	743
LD	29	43	45	47	16	24	46	40	20	44	10	8	372
DVD	691	751	934	817	123	315	794	769	589	493	200	99	6,575
その他	71	68	105	59	4	29	98	88	36	57	20	2	637
計	883	974	1,217	1,004	155	399	1,032	995	686	661	280	126	8,412

## INFORMATION

### 視聴覚ライブラリーより

#### 夏季休業中の開室について

夏季休業中に、AV 教室・視聴覚ライブラリー内の機器類の保守点検および各種教材の整備を行います。開室日・開室時間は、次のとおりとなります。

開室	8/2(火) - 10(水) 9/1(木) - 22(木)	9:30 - 16:30
閉室	土、日曜日 および祝祭日	
	8/11(木) - 31(水)	機器類の保守点検 および各種教材の整備のため

### 図書館より

#### 夏季休業中の開館時間

夏季休業中の開館日程は次のとおりです。詳しくは、図書館ホームページ、図書館内掲示板の開館カレンダーをご覧ください。また、カウンターには配布用のカレンダーを用意しています。

開館	8/2(火) - 10(水) 9/13(火) - 22(木) 集中講義期間	9:00 - 19:30
	8/22(月)-9/12(月)	9:00 - 16:30
	9/15(木) 館内整理日	17:00 - 19:30
閉館	土、日曜日 および祝祭日	
	8/11(木)-19(金) 曝書期間	

#### 夏季休業中の長期貸出

夏季休業に伴い長期貸出を行います。

実施期間： 7/11(月) - 9/15(木)

返却期限： 9/30(金)

貸出冊数：

1・2年生 科目等履修生 卒業生	7冊
3・4年生	10冊
院生 研究生	20冊

\* 院生・研究生は9/2(金)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。

#### オンラインジャーナルを追加しました

オンラインジャーナルのタイトルを追加しました。現在、91 タイトルを利用することができます。詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。なお、オンラインジャーナルは、学内 LAN 接続の端末からのみアクセス可能です。

#### ILL 申込用紙の様式を変更しました

ILL メール通知サービスを開始に伴い、ILL 申込用紙の様式を変更しました。新たに e-mail アドレス記入欄を設けております。ダウンロードページの様式も変わりました。旧様式をご利用の方は、新様式への切り替えをお願いします。

## 編集後記

1946年に英、露、中の三語科で創立され1962年に新たにイスパニア学科が増設されて4学科となった本学は1987年の国際関係学科の新設で現在の学科構成となるわけですが、フランス語やドイツ語の学科を持たないなど他の外国語大学とは異なる志向性を建学当初からもっていたと言えるでしょう。

体制を異にするソ連邦、蒋介石国民政府が毛沢東の率いる中国共産党と緊張関係の中にあった中国、そしていわゆる中南米の第三世界の共通語であるイスパニア学科という英語以外の語科の構成は単に欧米先進文化を追いかけるだけではだめなのではないかという明確な意識の存在を伺わせます。

「欧米文化とアジア文化を二つの焦点とする楕円的世界の構想」という田中教授の言葉は、ロシア、中国、中南米と

欧米そして日本という、いくつかの異なる焦点の選択による重層的な楕円的世界の可能性を開いて行くようにも思われます。

こうした発想は、ペリーによる開国以来日本がとってきた、太平洋とその向こうのアメリカ合衆国にたいする従来の姿勢を相対化する契機をはらむものであり、地方公立大学が、首都東京にたいする「地方」という枠組みを越える可能性を模索するうえでも参考になるかもしれません。

受験生の大学全入時代を間近にひかえ個性ある大学作りが求められており、そのためのヴィジョンをどう構築していくかが問われているわけですが、もちろん本号で触れられているような地道なサービスの展開がその前提となることは言うまでもありません。

編集責任者：図書館事務長 牛原秀治

AD ALTIORA SEMPER No.22 = 神戸市外国語大学図書館報

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学図書館

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257

E-MAIL: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

URL: <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2005年6月30日発行

発行責任者：図書館長 佐藤晴彦